

第 29 回 大腸癌プロジェクト研究「大腸癌腹膜播種の Grading」議事録

研究代表者 小林宏寿（帝京大学医学部附属溝口病院外科）

日時 第 103 回大腸癌研究会・2025 年 7 月 3 日（木）14:00～15:00

場所 ザ・グランユアーズフクイ（ホテルフジタ福井） 3F 葵の間

参加者 田代（防衛），小森（愛知がん），室野（東大），小山，岩佐（奈良），松山（埼玉医大医療セ），川崎（ベルランド），山内（東京科学），問山（三重），森川（福井），須藤，深瀬，佐藤（山形中央），豊田（栃木がん），能浦（堺市立総合），清松（国際医療セ），久保田（久留米），肥田，星野（京大），幸田，碓井，小杉（帝京ちば），富田（市立豊中），高見沢（国がん中央），須並（杏林），風間，夏目（埼玉がん），諸橋（弘前），小林（帝京溝口）

順不同・敬称略

議題 1 前回会議議事録案の承認

- ・前回議事録が承認された。

議題 2 腹膜播種の prospective study (観察研究) の進捗状況

- ・発表・論文化について

予後情報なし

1) ベルランド（登録数 1 位）：PCI と日本の大腸癌腹膜播種分類ならびに原発巣占拠部位との相関

→**Kawasaki M et al. J Anus Rectum Colon4(4);157-164, 2020**

2) 国がん（登録数 2 位）：R0 切除を行い得る症例はどのような症例か

→**Shida D et al. Int J Clin Oncol 25(2); 330-337, 2020**

予後情報あり

3) 事務局：PCI と日本の播種分類との予後分別能（新しい分類と

Grading の提示）→**Ann Gastroenterol Surg 7(5);765-771, 2023**

4) 防衛医大（登録数 4 位）：大腸癌腹膜播種症例の予後予測における

腫瘍マーカーの有用性→draft 作成中

5) 藤田医科（登録数第 5 位）：化学療法と播種症例の予後→欠席につき今後確認

6) 東京女子医大（登録数第 7 位）：大腸癌腹膜播種の機械学習を用いた予後予測

7) 東邦大学大森（登録数第 7 位）：原発巣を切除した大腸癌腹膜播種症例における予後因子解析 →**Kagami S et al. J Anus Rectum Colon. 2025 Jan 25;9(1):134-144**

8) 栃木がん（登録数第 7 位）：腹膜播種に対する手術と術後合併症の関係→投稿中

9) 奈良県立医（登録数第 7 位）：大腸癌腹膜転移における Glasgow Prognostic Score (GPS)

のインパクト → **Ann Gastroenterol Surg. 2025 Jan 24;9(4):750-760.**

10) 埼玉医大総合医セ（登録数第 12 位）：腹膜播種 CurB 症例の再発形式と予後因子

11) 東京大学（登録数第 13 位）：播種の局在と PCI 予後の関連

副次解析論文の進捗状況について各施設より進捗状況が発表された。

規約改訂委員会での審議において、次期規約改訂の際には大きさを含めた分類が採用されることとなり、文言について提言した。洗浄細胞診陽性も LCy1 と記載することを提案した。文言につき若干の修正を要するため、委員会にて検討した。

議題 3 腹腔洗浄細胞診の prospective study（観察研究）について

論文化の状況については以下の通り。

予後情報なし

1) 藤田医科（登録 1 位）：腹腔洗浄細胞診陽性に関連する因子の検討

→ **J Anus Rectum Colon. 2021 Oct 28;5(4):355-365.**

予後情報あり

2) 事務局：細胞診の結果と再発・予後の検討

→ **Ann Gastroenterol Surg 2024;8(5):807-816.**

3) ベルランド（登録 3 位）：陰性→陽性に転じた症例に相関する因子の検討 → **JARC accept**

4) 愛知がんセンター（登録 5 位）：施設別細胞診陽性率の差に関する検討 → **JARC 投稿中**

5) 防衛医大（登録 4 位）：腹膜播種再発の予測モデルに関する解析
(Nomogram もしくは Classification And Regression Tree を用いて)

6) 栃木県立がんセンター（登録 6 位）：pStage III 大腸癌におけるリンパ節転移個数と洗浄細胞診の関係 → 投稿中

7) 帝京大学ちば総合医療センター（登録 7 位）：細胞診陽性症例 Sideness による予後、再発治療の検討

各施設より副次解析論文の進捗状況が報告された。

次期規約改訂における新しい腹膜播種分類の提言がほぼ完了し、本委員会の目標が達せられた。副次解析論文の draft が複数未完成のため、委員会は次回まで延長とし、次回をもって委員会を終了する方針となった。

(文責：小林宏寿)